

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	6 教育内容・方法・成果（研究科）《全学的な視点》	
中項目	6.4 成果	
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）	
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。	
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学位審査の流れを学生に明示し、透明性・客観性を確保する。	→学位論文の取得要件の明示(論文数、筆頭著書の有無等)、リポジトリ等での学位論文の公開、学外審査委員の登用	C	C	B		
2. 学生に研究進捗状況を自己管理させる。	→研究の進捗状況に応じた中間発表の実施	B	B	A		
3. 長期的な視点で大学院満期退学、修了後の進路把握を行う。	→進路状況調査	B	B	B		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	学位取得プロセスモデルの策定は2011年度に13研究科すべてで実現し、公表にも至った。学位論文審査基準については一部研究科で明示されているに過ぎない。2012年度中に学位論文審査基準の策定と公表を実現する必要がある。
目標2	学位取得プロセスにおける中間発表会等は、13研究科すべてで取り入れており、その進捗管理は、院生自身、指導教員・副指導教員、研究科全体で把握する体制が整っている。今後は、学位論文審査基準の明示と、基準と進捗管理との整合を踏っていく必要がある。
目標3	卒業後の進路状況調査については、キャリアセンターにおいて前期課程修了者に対してほぼ100%実施しており、経年変化を追う体制が整いつつある。後期課程修了者（博士学位取得者及び満期退学者）については、進路状況の把握が難しく、各研究科に委ねる状況となっており、今後の大きな課題となっている。
備考	